

科学研究費助成事業 研究成果公開促進費 国際情報発信強化（平成26年度採択分）
「今必要とされる放射線影響研究を日本から世界へ発信するための取組」
（課題番号：262011）

学術団体名：一般社団法人 日本放射線影響学会
学術刊行物の名称：Journal of Radiation Research
事業期間：平成26年度～平成30年度

1 取組の概要

・ 取組内容の特徴と目的、意義及び方法

放射線は医療や産業において広く利用され、現代社会において必須のものである。医療においては、診断装置は言うに及ばず、がんの治療においても放射線が広く利用されている。一方、放射線や原子力の利用はリスクを伴うものであり、安全で安心な利用に寄与する研究の推進は、人類にとり喫緊の課題である。放射線の人体や生物、環境に及ぼす影響を明らかにすることを目的とする放射線影響研究は我が国で早くから進められてきており、研究のレベルや研究者数は世界のトップレベルにある。放射線影響学会は、放射線影響科学に関する最新の研究成果を、国際社会に発信することを目的に Journal of Radiation Research (JRR) 誌を刊行している。JRR 誌は、平成24年に海外著名大手出版会社である Oxford University Press (OUP) と出版提携し、既にフルオープンアクセス(OA)化を行っており、国際的にも高く評価され、インパクト係数も専門誌としては高い雑誌として刊行されてきている。国際ジャーナルとしての評価をより高め、我が国の研究者の成果をより広く世界に発信する場を確保する事を目標としている。

・ 応募時に設定した取組の目標・評価指標

1. JRR 誌の宣伝強化による投稿数の増加：約30編/月から40編/月
2. 編集体制の強化：論文原稿の受稿日から出版日までの期間等を改善
3. 査読者の増強：外国人査読者の増加
4. アクセス数の増大：約5,000/月のアクセス数を1.5倍に増加



2 目標の達成状況

・ 現在までの目標の達成状況

1. 投稿数の増加：応募時の投稿数を着実に維持している。応募時点月平均で約30編の投稿数であったが、平成27年度は27.5編/月、平成28年度では28.3編・月の投稿数である。
2. 編集体制の強化：編集体制を強化した結果、受稿から出版までの期間が、応募時平均143.3日であったが、平成27年度では平均111.9日まで短縮することができた。

3. 査読者の増強：外国人査読者数の増強を目指したが、目標達成は難しかった。しかしながら、査読の質は維持され、高いレベルの論文が掲載され、インパクトファクターは応募時点の1.447から平成27年度で1.536と改善されている。

4. アクセス数の増大：応募時点でのアクセス数は約5,300件/月程度であったが、その後、急激に増加し平成27年度には18,756件/月であった。また、PDFのダウンロードについても、応募時のダウンロード数の4,723件/月から大きく増加し平成27年度は15,170件/月になった。

・ 今後の計画

JRR 誌の宣伝強化による投稿数の増大、出版委託をしているOUPのノウハウを活用した編集体制の強化、米国、欧州、アジア諸国の関連学会との連携による外国人査読者の充実、アクセス数の増加などの情報発信の量的拡大により、JRR を媒体として放射線影響科学に係わる国際情報発信の強化をすすめる。著名な国内外の研究者に依頼して総説記事を増加させ、読者に対して魅力のある雑誌とし、アクセス数・ダウンロード数を増加させる。

